

問17 つぎ ぶんしやう 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本の紙幣、つまり紙のお金には1万円札、5千円札、2千円札、千円札、の4種類があります。このうち、一番新しく作られたのは2千円札です。2000年7月、沖縄で世界の国々のリーダーが集まって大きな会議がありました。2千円札は2000年という年と、その会議を記念して作られたのです。お札には、会議が開かれた沖縄の有名な建物の絵が印刷されています。また、日本で一番古い小説を書いた女の人の絵も印刷されています。

2千円札が初めて作られたとき、めずらしかったのでたくさんの方が2千円札をほしがりました。これまでに全部で8億8千万枚の2千円札が作られましたが、今、実際に使われているのは1億1千万枚だけだそうです。これは、全部のお札の枚数の1%だけで、今ではどこでもあまり見ることがなくなりました。最初はとても人気があった2千円札が、今ではあまり使われなくなってしまったのはどうしてでしょうか。

一番大きな理由は、大きさや色が千円札と似ていて間違えやすく使いにくかったからだとされています。また海外では、ヨーロッパの20ユーロ札、アメリカの20ドル札のように、「2」という数字がつくお札は珍しくないのですが、日本では「2」がつくお札は2千円札が初めてだったので、みんながその使い方になかなか慣れなかったということも考えられます。

でも本当は、2千円札があれば便利なはずですよ。例えば店で6千円の買い物をしたとき、1万円札を出したらどうなるでしょうか。おつりは4千円ですから、千円札なら4枚もらうことになります。ところが、もし2千円札があればおつりは2枚ですから、数えるのも簡単ですし、財布の中のお札の枚数も少なくすむのです。

今、2千円札は銀行で両替することはできますが、現金自動引出し機（ATM）で引き出すことができるところはほとんどありません。また、スーパーやコンビニのレジでもおつりとして用意されていないそうです。それから、日本ではどこにでもある飲み物などの自動販売機でも2千円札は使えません。つまり、お財布の中に2千円札が入っていても、使えるところがほとんどないのです。それで、みんなが持っているはずの2千円札が、家の引き出しの中で眠っているのです。せっかく2000年を記念して作られた2千円札なのに、見かけるのが少ないのは、（ A ） と思います。